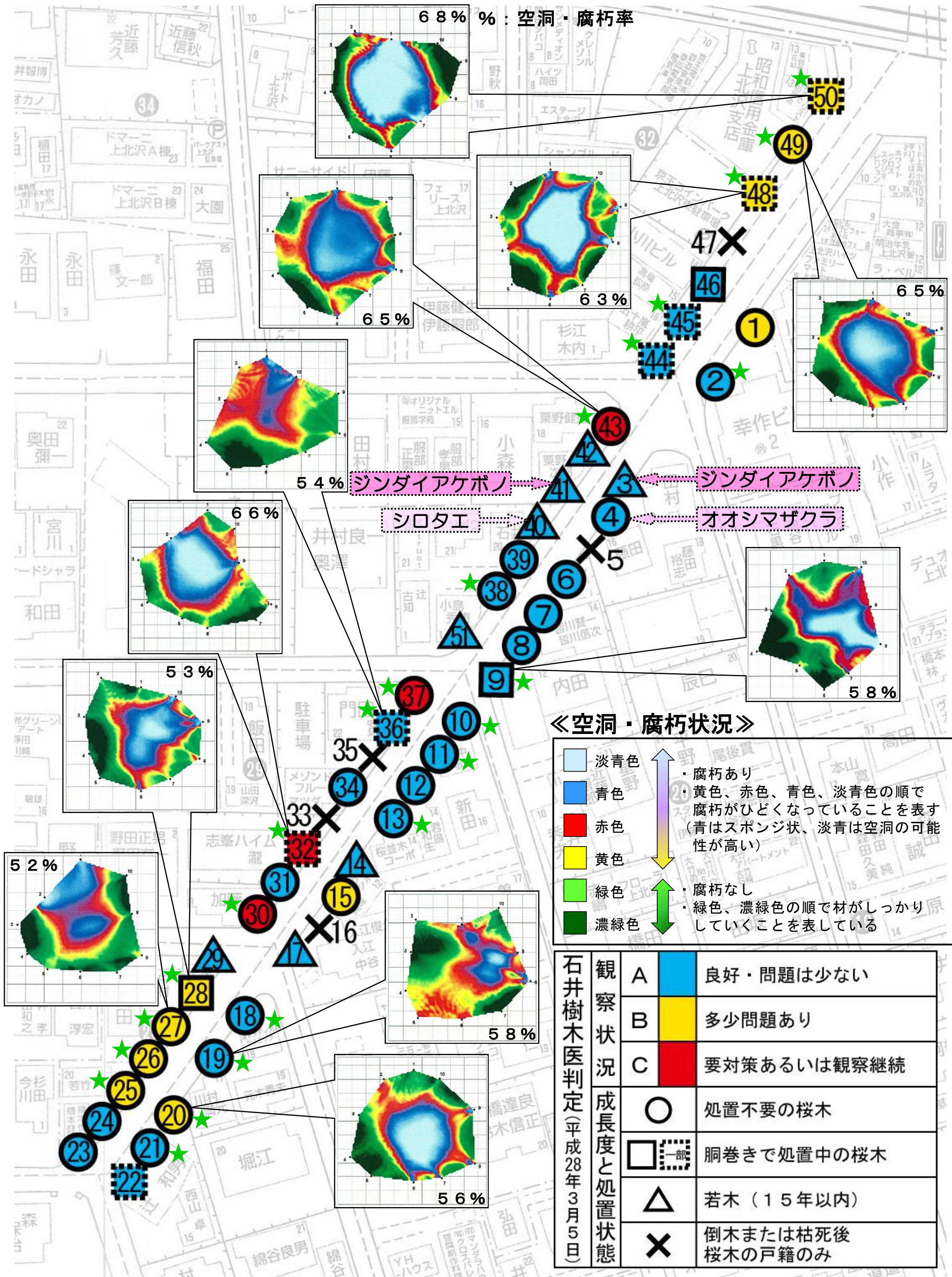


% : 空洞・腐朽率



《空洞・腐朽状況》

	淡青色	↑	<ul style="list-style-type: none"> ・腐朽あり ・黄色、赤色、青色、淡青色の順で腐朽がひどくなっていることを表す (青はスポンジ状、淡青は空洞の可能性が高い)
	青色		
	赤色		
	黄色		
	緑色	↓	<ul style="list-style-type: none"> ・腐朽なし ・緑色、濃緑色の順で材がしっかりとっていくことを表している
	濃緑色		

石井樹木医判定 (平成28年3月5日)	観察状況	A	良好・問題は少ない
		B	多少問題あり
		C	要対策あるいは観察継続
	成長度と処置状態	○	処置不要の桜木
			胴巻きで処置中の桜木
		△	若木 (15年以内)
	×	倒木または枯死後桜木の戸籍のみ	

精密診断調査 (平成28年9月30日)

★ : 精密診断対象樹木

精密診断結果（上北沢桜並木） 平成28年9月30日

No	H27 腐朽率	今回 腐朽率	判定	所見	今後の 方針
2	35	47	B2	幹：コフキタケ 倒木危険度は、やや高い。風圧軽減剪定が必要。	軽減剪定
9		58	C	幹の芯材から辺材部に貫通し閾値50%を超える極めて大きな異常が認められた。数値的には倒木または幹折損の危険度が高く、植替え検討を要す樹木である。存置する期間が長い場合は、風圧軽減剪定が必要である。	軽減剪定
10		37	B2	打音異常（大） 継続観察を要す。	
11		21	B1	根元：マンネンタケ 継続観察を要す。	
13		49	B2	根：コフキタケ 倒木危険度が高く、植替え検討を要す。	軽減剪定
18		23	B1	根元：マンネンタケ 継続観察を要す。	
19	41	58	C	根元の芯材から辺材部に貫通し閾値50%を超える極めて大きな異常が認められた。数値的には倒木危険度が高く、植替え検討を要す樹木である。存置する期間が長い場合は、風圧軽減剪定が必要である。	軽減剪定
20	50	56	C	根元の芯材から辺材部に貫通し閾値50%を超える極めて大きな異常が認められた。前回診断時より腐朽空洞率は大きくなっており、倒木危険度が高く植替え検討を要す樹木である。存置する期間が長い場合は、風圧軽減剪定が必要である。	軽減剪定
21	24	31	B2	根元：マンネンタケ 継続観察を要す。	
25	44	47	B2	根元腐朽 幹：カワウソタケ 風圧軽減剪定が必要。	
26		36	B2	風圧軽減剪定が必要。	軽減剪定
27	34	52	C	幹の辺材から芯材にかけて閾値50%を超える大きな異常が認められた。前回診断時より数値は著しく大きくなっており、倒木または幹折損の危険度が高い樹木である。数値的には植替え検討を要す樹木であるが、存置する期間が長い場合は風圧軽減剪定が必要である。	軽減剪定 胴巻き実施
28		53	C	幹の芯材から辺材部にかけて、閾値50%を超える極めて大きな異常が認められた。倒木または幹折損の危険度が高く植替え検討を要す樹木である。存置する期間が長い場合は、風圧軽減剪定を行う必要がある。	軽減剪定
30	6	11	B1	枝：コフキタケ 継続観察を要す。	
32	58	66	C	根元の芯材から辺材部にかけて閾値50%を超える極めて大きな異常が認められた。前回診断時より数値は著しく大きくなっており、倒木危険度が高い樹木である。数値的には植替え検討を要す樹木であるが、存置する期間が長い場合は風圧軽減剪定が必要である。	伐採・ 植え替え
36		54	C	根元の辺材から芯材にかけて閾値50%を超える極めて大きな異常が認められた。数値的には倒木危険度が高く、植替え検討を要す樹木である。存置する期間が長い場合は、風圧軽減剪定を行う必要がある。	軽減剪定
37		30	B2	枝：カワウソタケ、根元：ベッコウタケ 継続観察を要す。	
38		35	B2	継続観察を要す。	
43	63	65	C	幹の芯材から辺材部に広がり、閾値50%を超える極めて大きな異常が認められた。腐朽空洞率は前回診断時とほぼ同じであるが、数値的には倒木または幹折損の危険度が高く、植替え検討を要す樹木である。存置する期間が長い場合は、風圧軽減剪定を行う必要がある。	伐採・ 植え替え
44	26	35	B2	継続観察を要す。	
45		49	B2	倒木危険度が高く、植替え検討を要す。	軽減剪定
48	59	63	C	根元の芯材から辺材部に広がり閾値50%を超える極めて大きな異常が認められた。前回診断時より腐朽空洞率は大きくなっており、数値的には倒木危険度が高く、植替え検討を要す樹木である。存置する期間が長い場合は、風圧軽減剪定が必要である。	軽減剪定
49	52	65	C	根元の芯材から辺材部に広がり閾値50%を超える極めて大きな異常が認められた。前回診断時より腐朽空洞率は大きくなっており、数値的には倒木危険度が高く、植替え検討を要す樹木である。存置する期間が長い場合は、風圧軽減剪定が必要である。	軽減剪定
50	64	68	C	根元の芯材から辺材部にに広がり閾値50%を超える極めて大きな異常が認められた。前回診断時より腐朽空洞率は大きくなっており、数値的には倒木危険度が高く、植替え検討を要す樹木である。存置する期間が長い場合は、風圧軽減剪定が必要である。	伐採・ 植え替え

B1=注意すべき被害（3本）

B2=著しい被害（10本）

C=不健全（11本）

（全46本中）